

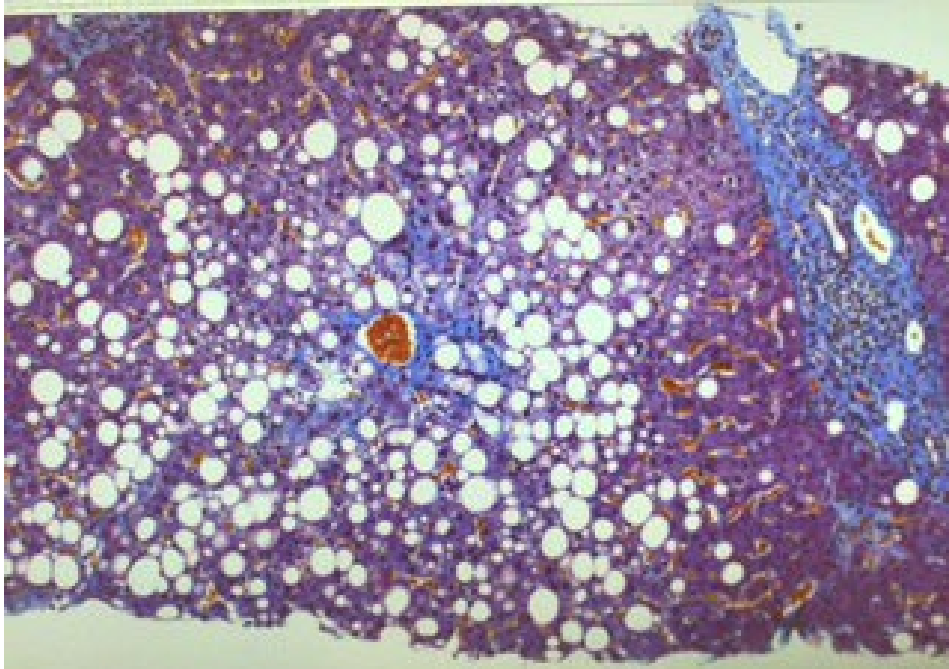
## ④ 脂肪肝、その他代謝性肝疾患

### 脂肪肝

脂肪肝とは、脂質のひとつである中性脂肪が肝臓内に多く蓄積する状態です。代表的な原因はアルコールを多量に摂取することですが、最近になりアルコール摂取をしない方でも脂肪肝になることがわかってきています。これは非アルコール性脂肪性肝疾患（NAFLD）と呼ばれ、糖尿病をはじめメタボリックシンドロームとの関連性が強く指摘されています。炎症の強い脂肪肝は脂肪性肝炎（アルコール性脂肪性肝炎：ASH、非アルコール性脂肪性肝炎：NASH）と呼ばれます。この肝炎を放置してしまうと肝硬変や肝臓へと進展してしまう危険性があります。そのため、定期検査や継続的な治療が必要な場合もあります。

- ・ 症状：なし
- ・ 治療は基本ダイエット（食事運動療法）

（アルコール性は断酒。非アルコール性は成人病に対する治療が中心）



非アルコール性脂肪性肝炎患者（NASH）の肝生検組織（アザン・マロリー染色）

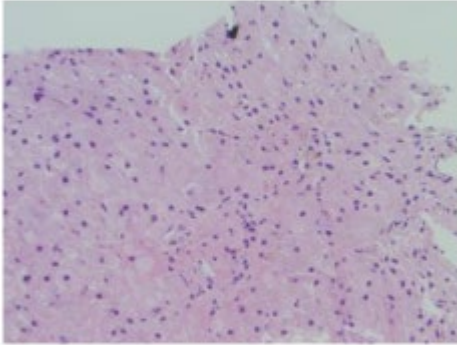
## その他代謝性肝疾患

ウイルス肝炎以外にも日常診療では成因不明の肝障害をもつ患者さんが多数います。我々は、これまでに成因不明の肝障害患者からヘモクロマトーシス、Wilson病、肝アミロイドーシス、薬物性肝障害などを診断し、治療してきました。

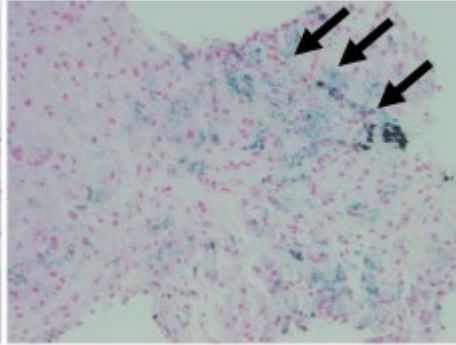
成因不明肝障害の診断には肝生検による肝組織診断が不可欠です。

## ヘモクロマトーシス

HE × 200



鉄染色 × 200



鉄過剰症を伴う成因不明肝硬変患者の肝組織検査。鉄染色からヘモクロマトーシスによる慢性肝障害と診断。